



大賞に「余笹川流域連携ネットワーク」

活力あるふるさとづくりに取り組む団体・個人を顕彰する第五回「下野ふるさと大賞」(下野新聞社主催、カンセキ、キリンビール、栃木統括支社、東武宇都宮百貨店、栃木銀行協賛)の最終審査会が九日、下野新聞社で開かれ、大賞に那須町の「余笹川流域連携ネットワーク」(稲葉茂会長)が選ばれた。準大賞は足利市の「足利名草ふるさと自然塾運営協議会」、茂木町の「入郷棚田保全協議会」が選ばれた。

今回は県内から六十一団体が応募した。「余笹川流域連携ネットワーク」は一九九八年の那須水害で余笹川復旧に携わった関係者、地元住民らが二〇〇三年に結成。会員約百八十人が流域の環境変化や動植物の生息状況を調査した

「川の日記念事業」で行ったアユの友釣り体験教室(二〇〇七年七月七日、那須町の余笹川)

下野ふるさと大賞

那須水害 風化防止へ尽力

り、「よささウオーク」などの行事を通して水害を忘れない取り組みを行っている。

竹内明子審査委員長(県生活協同組合連合会会長理事)は「地域の暮らし、子どもたちのことを真剣に考え取り組む団体が多かった。大賞は水害から十年、復興に協力したボランティアなどの善意を地元住民らが力にして活動を継続している点が評価された」と話した。表彰式は十一月七日、宇都宮市の県総合文化センターで行われ、賞状盾と大賞は三十万円、準大賞は十万円の活動資金が贈られる。

大勢の支援者に感謝

稲葉茂会長の話 活動を支えてくれた大勢の人に感謝し、会員と受賞を喜び合いたい。これを励みに活動を継続し、子どもたちに教育の場としての川を伝えていきたい。